

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-----------------|-------------------|
| 課題番号 | 19108004 | 研究期間 | 平成19年度～平成23年度 |
| 研究課題名 | 新規ペプチドを用いた畜産・獣医領域におけるトランスレーショナルリサーチ | 研究代表者 (所属・職) | 村上 昇（宮崎大学・農学部・教授） |

【平成22年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|---|--|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| ○ | B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>愛玩動物を対象とした研究は期待どおりの進展が見られるが、ウシなどの産業動物に対するトランスレーショナルリサーチをいかに推進させるかが今後の課題である。ラットを用いたグレリンなどの新規ペプチドに対する機能解析は進展している。論文、特許申請などにおいては積極的な公表・普及が行われているが、一般の人々への啓蒙を考えるとマスメディアへの働きかけが少な過ぎる。トランスレーショナルリサーチという優れた発想をもった研究において実りのある成果を得るためには、身近な研究者によって組織するだけでなく、他大学や他研究機関、とくに民間の研究機関を含めた研究体制の充実を図る必要がある。</p> | |

【平成24年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | 研究進捗評価結果と比べ、十分進展した研究成果であった。 |
| A | <p>具体的には、ウシにおいてグレリンの乳量増加作用及びデスアシルグレリンの体温低下作用を明らかにし、後者においては国際特許を出願している。また、伴侶動物においても民間あるいは大学の動物病院と連携し、グレリンに術後の摂食不良等を改善する効果があることを見だし、これについても特許を出願している。以上のように、研究進捗評価以降、トランスレーショナルリサーチとして十分な実績を挙げている。さらに、ニューロメジンSの新規生理作用の発見、新規遺伝性肥満マウス（Daruma）の確立と応用（国際特許登録）など、基礎的研究においても着実な進展が見られる。</p> |